



今年度のESG活動報告(構成案)について

区 分	報 告	対象範囲	全資産
エグゼクティブサマリー 今年度のESG活動報告の構成案について報告するもの			
バックグラウンド - ESG投資の「PDCA(計画→実行→評価→改善)サイクル」を適切に回すためには、ESG評価の向上や企業のESG対応の強化につながっているのか、さらには、それらが金融市場の持続可能性向上やリスク調整後のリターンの向上につながっているのかを正しく評価する必要がある。 - ESGに関する取組みの効果測定については、投資パフォーマンスの観点に留まらず、企業のESG評価の変化など多面的な評価を「ESG活動報告」にて行うこととした。		フィードバック期間及び検証方法 - フィードバック期間: 随時 - 検証方法: 運用会社等とのミーティング、企業向けアンケート等で意見を聴取し、認知度や内容の妥当性などを確認	
今後の予定 - 第26回経営委員会(7/18)にて原案を報告予定 - 対外公表は8月中を予定 4,500部印刷し、PDFファイルでHPにも掲載 9月に英語版(1,000部)も公表予定		便益及びリスク 便益 - GPIFのESGに関する取組みに対する理解向上 - PDCAサイクルを回すことによるESG活動の質の向上	
		KPI ---	
		その他 ---	

「ESG活動報告 2018」の作成について

- GPIFのESGに関する様々な取組みや効果測定について、国民や企業などマルチステークホルダー向けに広く情報開示を行う。
- ESG活動報告は、ESGに関する取組みと効果にフォーカスする点で業務概況書やスチュワードシップ報告と異なる。昨年同様、ESGデータの更新および保有銘柄開示のタイミングを踏まえ、8月中の発行を目指す。

(2018年版のポイント)

- 前回のESG活動報告に対する様々なご意見を踏まえ、「読みやすさ」「わかりやすさ」の改善を目指すとともに、本年度よりTCFDによる提言を踏まえた情報開示を行う。

＜各種報告書の位置づけ＞

業務概況書(取組み全般)

ESG活動報告

- ・前年度の取組み
- ・ESG投資の効果測定

スチュワードシップ 報告書

- ・前年の取組み
- ・運用受託機関への期待と課題

＜「ESG活動報告」作成スケジュール＞

6/6 経営委員会（構成案）

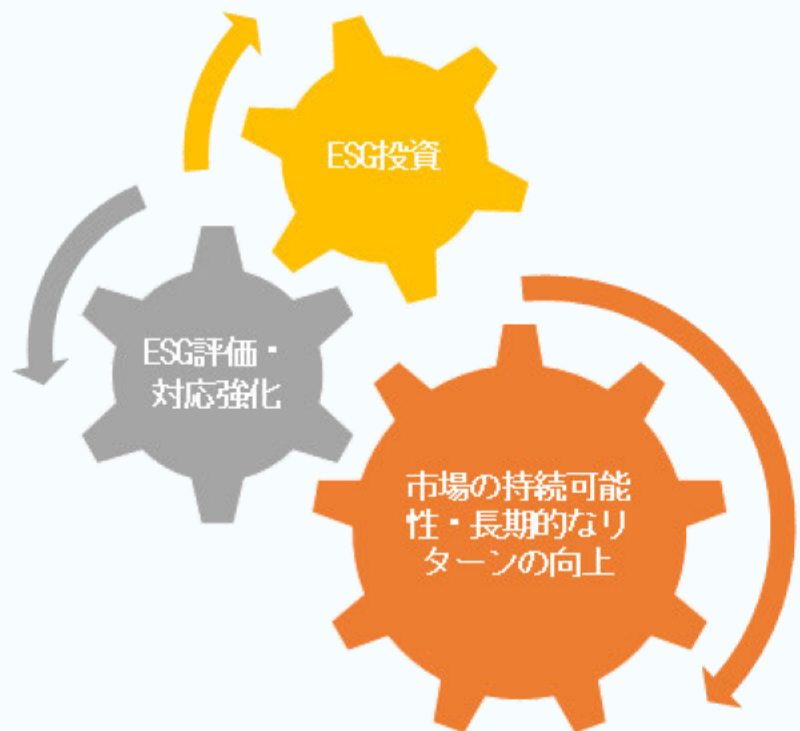
7/18 経営委員会（原案）

対外公表(8月)

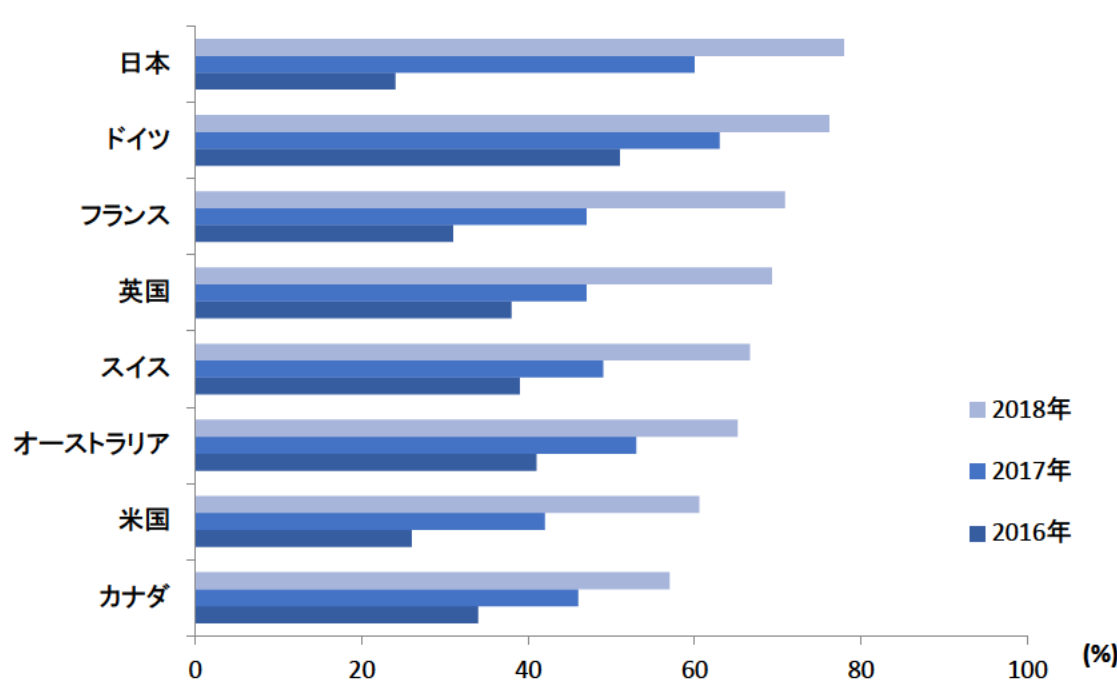
ESG推進活動の効果測定のかえ方

- ESG投資の「PDCA(計画→実行→評価→改善)サイクル」を適切に回すためには、ESG評価の向上や企業のESG対応の強化につながっているのか、ESG評価の向上や企業のESG対応の強化が金融市場の持続可能性向上やリスク調整後のリターンの向上につながっているのかを正しく評価する必要があります。
- 当活動報告では昨年に続き、ESG投資が期待通り、ESG評価の向上や企業のESG対応の強化につながっているのかを中心に分析を行う。

<ESG投資・推進活動が効果を表すまでのイメージ>



<ESG評価プロセスでMSCI社と対話を行った企業の割合>



(出所) ©2019 MSCI ESG Research LLC. Reproduced by permission

「ESG活動報告 2018」の構成案

特集: GPIFとESG

- GPIFがESGを重視する理由
- GPIFとは
- 積立金の安定化に向けて
- 理事長あいさつ

第1章: GPIFのESG活動

- 今年度の活動ハイライト
- ESGに関するガバナンスおよび組織・体制
- インテグレーション: ESG・環境指数
- インテグレーション & エンゲージメント(伝統資産): 運用会社評価におけるESG、指数会社へのエンゲージメント等
- インテグレーション & エンゲージメント(オルタナ)
- コラボレーション: PRI、TCFDへの賛同、Climate Action100+への参加、30%Club、Thirty Percent Coalition

第2章: ESG活動の効果測定

- ESG指数のパフォーマンス
- ポートフォリオのESG評価
- 気候変動リスクの検証およびシナリオ分析
- カーボンフットプリント・カーボンインテンシティ
- 国別ESG評価ランキング
- ESG評価間の相関
- E・S・Gに関する日本企業の状況
- 今後の課題等

※赤字・下線部は新規掲載